

普通2段のびであるが、あげ高に応じ1段または3段のび等がある。せまい場所でも低速に運転できるよう回転半径はきわめて小さくなっている。

作業範囲の自由性、電源設備の不要、フォークをバケットその他特殊のアタッチメントと替えることにより、特殊作業に従事できるので従来の荷役設備に取ってかわる傾向にある。(井田緑朗)

フォーストドロップ (英) forced drop 電気てこの鎖錠部に設けられた、鎖錠(さじょう)子を押し下げる装置であって、不要に解錠状態にあることを防止するものである。電気てこの電気鎖錠は、鎖錠子が鎖錠片の突起に引っかかることによってなされるが、鎖錠電磁石の動作によって鎖錠子を持ち上げ、鎖錠片の突起が鎖錠子を通じた場合には、鎖錠子はできるだけ早く落下して、つぎの鎖錠に備える必要がある。鎖錠電磁石が動作を失った場合鎖錠子は自重によって落下するが、残留磁気または機械的の故障によって落下不能の場合を考慮して、鎖錠片下面の傾斜のある突起(電気連動機、電気機連動機)または鎖錠子ガイドの傾斜(卓上リバー)によって強制的に押し下げるようにしたものである。(尾松広一)

ぶがいでんわ 部外電話 国鉄がその業務を運営する上にあって、相互に緊密な関係を有する国鉄以外の箇所に、国鉄所属の電話交換機に加入した鉄道電話を設置しているが、これは有線電気通信法(昭和28年法律第96号)の第4条に「有線電気通信設備は、2人以上の者が共同して設置してはならない。ただしつぎに掲げる場合はこの限りでない」と定め、そのただし書第5号に「相互に緊密な関係を有する業務に必要な通信を行うため、これらの業務を行う者が郵政大臣の許可を受けて設置するとき」とあり、これに準拠して設置したものを国鉄では部外電話または共同設置電話といっている。(福島武雄)

ぶがかり 歩掛り 工事種類ごとに、その単位数量に対する必要にしてかつ、十分な実働人員数を表わしたものの。したがって工事数量に歩掛りを乗じこれにそのときの人夫賃金を乗ずれば、その工事種類に対する労務費を知ることができる。一般に単位工事量に対して手戻りなく、しかもあまり無理でなく施工できる程度の所要人員を出しておき、これを標準歩掛りと称して技術者が工事予算を組む場合の目安としている。(尾崎 寿)

ふかくうきだめ 付加空気だめ (英) supplementary reservoir 空気ブレーキ装置制御弁の基本動作を補足するための空気圧力を与える大形の空気だめ、すなわち非常ブレーキ力強化、まただめ促進ならびに階段ゆるめ作用を行わせるためなど性能向上をさせるため、補助空気だめとは別にこれに付加して用いられるものである。——空気ブレーキの作用。(高桑五六)

ふかじゅうりょう 付加重量 貨物の保護または運転保安上その他の必要から、運送貨物のほか、水、氷、砂利等を貨車に積み加え運送することがあるが、運賃料金を計算する場合には、これらのものの重量を貨物の重量に加算して計算することになっている。この積み加えた物の重量を付加重量という。しかし、つぎの重量は、付加重量とせず貨物の重量に加算しない。

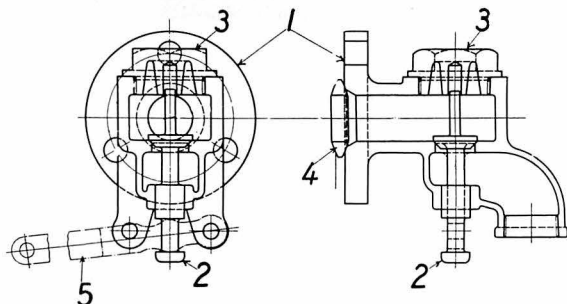
無がい貨車または無がい自動車に車扱貨物を積載する場合、覆布、網、綱、チェーン、鉄索または貨車に設備していない貨物積付用の建木およびまくり木類(貨物の一部をこの目的に使用した場合を除く)を使用するときは、その重量を貨物の重量に加算しない。(重森直樹)

ふきだしべんそうち 吹出し弁装置 (蒸気機関車ボイラの) (英) blow off valve device 洗かんのためにボイラ水を排出または、ボイラ水の濃縮防止のため一部のボイラ水を排

出するために使用する装置。吹出し弁はボイラの最下部すなわち外火室のど板中央下部、または外火室側板の下方に設けられ玉継手を介して取付ける。

吹出し弁の構造は(図-1)弁体(1)・弁(2)・ふた(3)は青銅(BC3A)製であり、玉継手(4)・ハンドル(5)は鋼製で、平常はボイラ圧によって弁はその座に密着しているが、ハンドルの一端を引上げることによって開弁されボイラ水を吹出す。

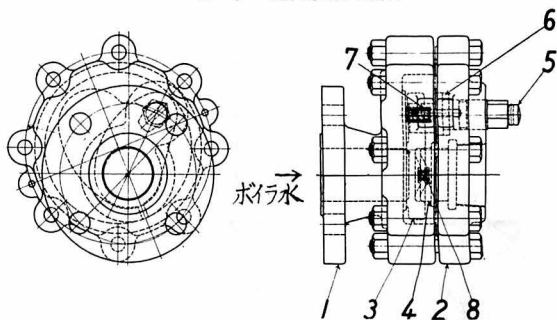
1. 吹出し弁の構造



国鉄最近の機関車には(図-2)すべり弁式を採用している。弁箱(1)に弁箱ふた(2)をすり合わせの上ボルト締めされ、その箱内部に吹出し主弁(3)、吹出し補助弁(4)、吹出し弁心棒(5)などの青銅(BC3A)製のものと、リングガスケット(6)、心棒押えばね(7)、吹出し弁押えばね(8)を納めている。ボイラに圧力がないときは(3)と(4)は(8)によってそれぞれ座に接し、ボイラ水の入口・出口をふさいでいる。ボイラに圧力があるときは(3)は浮きあがり、弁箱内も同圧力になって弁(4)の背面に作用し座に密着させ気密を保つ。弁を開くには吹出し弁心棒(5)に取付けたハンドルを操作して心棒(5)を中心とし、(3)により(4)の弁が体の座をすべりながら開口し、約60°移動すると出口と入口は一直線に開放される。

この式は前者のポベット弁式と違い、ボイラ水中の湯あかなどの固形物がはさまれても弁と座の間で切り取り、弁座にはさまって弁を閉めても漏れがとまらぬようなことがない。

2. すべり弁式吹出し装置



吹出し消音器 吹出し弁装置は従来は機関車の仕業中は使用しないが、主として機関区において使用していたが、最近ボイラ水を清かん剤によって処理することが特に盛んになり、これによると仕業中にもボイラ水がある程度排出するのがよいので、吹出し弁のドレン管の先端に消音器を取付けて仕業中も使用しうる構造のものがある。これに用いる消音器を吹出し消音器といい、吹出し弁使用時の大きな排出音を消すようになっている。吹出し弁を開いて万一弁と弁座では切取れないような大きな固形物などにより弁が閉められない場合を考慮し、吹出し弁と消音器の中間にコックを備え、遠隔操作してここで締切るように